

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890500164		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームひょうご須佐野		
所在地	兵庫県神戸市兵庫区明和通2丁目1番27号		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	令和5年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2-104		
訪問調査日	令和5年1月19日		

長引くコロナ禍により今まで行えていた行事やレクリエーションが行えない状態になっているが、室内の装飾での工夫や室内で行える行事で季節の変化を感じていただいている。感染拡大時の面会制限により入居者様や家族様・御関係者様には御不自由をお掛けしているが、面会制限のある時でも居室の窓越しでの面会や、パソコンでのテレビ電話アプリ「Skype」でお話しいただいている。個々の思いを尊重し、出来る限り自由に過ごしていただけるように環境も配慮しているが、全てが自由なわけではないので、希望・要望を漏らさず汲み取り可能な限りのサービス提供が出来るように職員も協力し取り組んでいる。外出の機会が減ったことにより下肢筋力の低下も気にしなければいけない方もおられるので、体操やペダル漕ぎ等で補えるように協力いただいている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接する高層住宅自治会との交流など開設後の8年半で地域との付き合いは深まっている。感染防止の為直接交流を控えていた近くの保育園児の訪問及び中学校のトライやるウィークの再開に向けて、連絡を取り準備をしている。家族からのマスクを外した顔を見たいとか運動させて欲しいという要望に応じて、Skypeでの面会や利用者ごとの体操メニュー等を工夫した。隔月で家族に「〇〇様の最近のご様子」という写真入りの報告を送り喜ばれている。コロナ禍ではあるが職員の提案でお花見ドライブをして記念写真を撮った。1月は近くの和田神社に初詣に行く計画を立てている。クリスマス会ではケーキを買い、いちごやチョコを盛り付けて賑やかな集いを楽しんだ。協力医療機関と連携を取って看取りも行う。昨年は2人の方をご家族と共に安らかにお見送りした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームひょうご須佐野

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新入社員研修や内部研修を通して理念を共有している。又、フロア等の目につく場所に掲示したり、第三者評価も確認の機会になっている。	「自分の親に受けさせたい…」に始まる法人の理念3箇条を壁に掲示し職員と共有している。事業所独自には「共に暮らす」を基本方針としており、入居者が自分でできることはして頂き、できないことをサポートするという支援の基本姿勢を徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為に現在行われていないが、近隣の保育所との交流会、中学校のトライやるウィークの受け入れを積極的に行っており、現在も定期的に連絡を取り再開できるようにしている。	隣接する高層住宅自治会のふれあい喫茶に参加するなど地域との付き合いは深まっていたが、感染防止の為に直接交流する行事は控えている。昨年からの近くの保育園児の訪問及び中学校のトライやるウィークの再開に向けて相互に連絡を取り、準備をしている。	コロナ禍以前に交流していた保育園や中学校等とは接触を保っておられます。感染収束の暁にはそのつながりを活かして交流を再開し、地域貢献の活動も展開していかれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会には所属していないが、運営推進会議にも出席していただき、地域の皆様の介護に対するご相談を受け付け、併設事業所と共により良いサービス提供が出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為に、出席型の会議は行っていないが、入居者様・家族様・地域支援センター・民生委員・知見を有する方に書面でもやり取りをし施設の運営状況等を発信すると共に、色々なご意見をもらっている。	運営推進会議は自治会長・地域包括支援センターなど必要なメンバーを揃え、3~4人の家族も参加して隔月で開催し活発に意見交換していた。今は対面ではなく文書でのやりとりとなっている。書面で意見を頂き、議事録はメンバーと全家族に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしんすこやかセンターとは運営推進会議でもご意見を頂いており、生活保護の入居者様の事案等、区役所の担当者と連携しながらサービス提供している。	市には必要に応じて適宜、連絡や相談を行っている。6名いる生活保護受給者の手続で区役所と連携している。地域包括支援センターとは訪問して情報交換したり、併設の小規模多機能と共に利用につながるような相談を受けるなど日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時の研修と共に年間研修にも盛り込みながら、3か月に1回身体拘束適正化委員会を行い、適正な運営が出来ているか話し合い、議事録で職員にも周知している。	研修と身体的拘束適正化検討委員会を行い身体拘束ゼロのケアの徹底を図っている。ユニット入口は安全の為に施錠しているが希望する方には職員が付添い出ている。家族に了解を得てセンサーマット・動感センサーを使う方が各1名いるが、定期的に見直している。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時の虐待防止研修に加え、年に2回虐待防止に関する研修を行うと共に、本社からの研修も取り入れ、どのような行動が虐待にあたるか周知し、未然に防ぐような体制を作っている。	虐待防止の研修を年2回行い、虐待の芽を摘むアンケートも実施している。不適切と思われる言動があった時は、職員同士でも注意し合える環境が醸成されている。職員がセルフ方式でストレスをチェックし、ハイスコアなら医師面談につなぐ仕組みもある。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に権利擁護の研修を取り込み、相談があった場合には個別に情報共有すると共に、関係機関と連携をとり仲介もを行っている。	成年後見人として弁護士の付いている方が1人と一般社団法人による保証や金銭管理等のサービスを受けている方が2人いる。家族の対応が難しい方2人に市の安心サポートセンターのサービスを紹介した。制度に関する研修を定期的に行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談の時点から、丁寧にお話を伺い疑問や不明確な点をお聞きし、ご納得いただけるまで説明を行う。十分に理解され運営方針に納得されてから契約に至るようにしている。	入居相談の時点から懇切に説明し、契約時には重要な文書は読み上げ1時間余りかけて説明している。最期までみてもらえるかとの質問には、重度化した場合の指針などで常時医療措置が必要になれば難しいこと等を説明し納得頂いて契約をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画の更新時や運営推進会議でのアンケートなど家族様のご要望やご意見をうかがえる機会を持ち、頂いた意見に対しては出来る限り実現できるように努力している。	面会出来ない期間が長く運営推進会議も書面開催の為、家族からは介護計画更新時も含め主に電話で意見・要望を伺っている。マスクを外した顔を見たいとか運動させて欲しいという要望に応じてSkypeでの面会や利用者ごとの体操メニュー等を工夫した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例ミーティングで意見や提案を出し合い、出た意見に対して出来る事と出来ない事を理由を付けて説明している。	職員からの意見は月1回のフロアミーティングで話し合い検討し、それ以外に現場でも随時聞き取っている。入居者への個別のケアや支援の内容に始まり、お花見等の行事企画や備品・環境整備まで幅広く意見が出され、何度もよく話し合って結論を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間の自己目標を設定し、所与のタイミングで自分自身がどれだけできているかを自己評価すると共に、責任者と面談することによってこれからの新しい目標設定や課題を見つけ出すことによりやりがいを生み、向上心が持てるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修だけではなく、外部からの研修の周知があった際には職員にも紹介し、希望者には各資格試験にチャレンジしていける機会の案内や推薦を行える環境を整えている。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	兵庫区のグループホーム連絡会に所属してはいるが、コロナ禍の為に長らく開催されていない。 今の状況では中々他の施設との交流も難しい状況だが、グループ内での他事業所が集まるミーティングも開催されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談において、ご本人様に意見だけではなく家族様も交えて出来る限り多くの情報とご希望を収集し、知りえた内容を持ち帰りその方にどのようなケア内容が妥当か検討すると共に、安心されるまで話し合いを行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居されるにあたり、どのようなことが困りごとで入居希望に至ったかをお伺いし、入居後の希望される生活様式を細かくお聞きし、どのような事が出来るか具体的に説明することによって、安心して過ごしていただけるようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後1か月は最低限必要な内容の介護計画とし、その期間中により深く観察することによってその他に必用なことはないか、暫定の介護計画がその方にあっているのかを見極め、より細かい内容の介護計画作成に更新している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」を基本とし、その方がいかに入居前のご自宅での生活に近い日常を送って頂けるかを職員全員で意見を出し合い、「お客様」と「サービス提供者」ではなく、出来る事はやって頂き、職員本位のサービス提供にならないように気を付けている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「施設に預けておけば大丈夫」という考え方ではなく、施設の方で困りごとがあれば、家族様が関わることで解決する事案なら可能な範囲でお願いし、面会や電話で関係性が薄れないようにするとともに、細かい事でも家族様に報告し、随時どのような状況なのかを把握していただいている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、以前のような自由な外出や面会が出来ていない中で、お手紙を送って頂いたり電話でお話しされたりと、関係性が切れないように配慮している。	以前は馴染みの店や場所に職員と行っていたが今は控えている。知人や近所の人から手紙や電話をもらう方も居る。事業所が家族に出す年賀状へ入居者に一筆添えてもらうこともある。隔月で家族に「〇〇様の最近のご様子」という写真入りの便りを送っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がコミュニケーションを取りやすい環境の整備や座席の配置に細かく配慮し、縛りの少ない交流が出来るように努力している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後もその方に必要な情報提供はスムーズに行い、次の施設や病院への移行に差支えないように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の更新時の本人様からの希望の聞き取りを軸とし、日常生活の中の会話から多様なことを望まれているかをくみ取り、出来る限り実現できるように、家族様の協力も得ている。	入居前の暮らしを本人や家族等から聞き取り、介護計画の更新時にも本人の希望とプランが合っているか担当職員と計画作成者が検討する。そのうえで居室に伺い本人と話し合い確認する。意思疎通が困難な場合は家族の協力を得て本人の表情や様子から判断する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に行う面談にて、ご自身や家族様からこれまでの生活歴や習慣を出来る限り詳しくお聞きし、可能な限りそれまでにより近い生活が再現できるように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でレクリエーションや体操を行うことにより、その方の残存能力を把握し、出来る限り維持できるように努めている。			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、ご本人や家族様の希望を聞き取ると共に、今抱えている課題の解決に必要なサービスの説明を行っている。	月1回のフロアミーティングで介護計画見直しの検討を関係者間で行い、家族と電話等で確認し本人の同意を得て決めている。3か月ごとに短期目標をモニタリング用紙に記入し、体調に変化があった場合などは随時変更を行い現状に即したプランに反映させている。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的にはケース記録に詳しく記録し、職員全員の周知が必要な場合には、申し送りノートに記入し回覧することで、情報の周知徹底を行っている。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・家族様の状況の変化や、ニーズの変化に対応するために変わったことがあれば連絡し可能な対応の検討を行い、必要時には併設している小規模多機能型サービスとも連携しサービスの多様化に努めている。			
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為現在は行っていないが、近隣団地のふれあい喫茶に参加したり、個別支援として郵便局の利用や買い物、外食をできる限り実現できるように対応していた。			
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設と契約している医療機関の往診・訪問看護を紹介させて頂いているが、今までにお世話になりこれからも利用を続けたい医療機関があればそちらが利用できるように配慮している。	契約時に以前からのかかりつけ医か事業所の協力医を受診するか選択していただく。今年から松田・神戸クリニックに変更し月2回の往診と訪問看護をほとんどの方が受けている。歯科の往診治療もある。医院には定期的に近況を報告し、24時間対応の支援を受けている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の時に体調の変化等あれば相談し、必要な場合は医師との連携をお願いしている。健康チェックだけにとどまらず、細かい変化を共有することによって異変に迅速に対応できるようにしている。			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には速やかに病院に情報提供をし、地域連携室と密に連絡を取ることによって、早期の退院につながるよう努め、退院される際にも情報交換を十分に行い、不安なくスムーズに施設に戻っていただける関係性を構築している。	入院時には日常の様子や健康状態などの情報を提供している。地域連携室を通して経過を聞き、退院の連絡があればカンファレンスに参加し、医療行為がないことや口から栄養が摂取できることを確認し、家族と相談の上スムーズな退院ができるよう協力している。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に「重度化した場合の指針」を説明しており、その時になると再度説明を行い施設で出来る事と出来ない事を明確に説明し了承を得ている。その上で看取りを希望された場合、可能な限り家族様・医療と連携して希望される形で行っている。	契約時に重度化した場合の指針を説明し同意書で支援内容を確認している。体調が悪化した場合、家族は主治医から説明を受け、看取りを希望する場合は在宅、施設、病院いずれかの場所を選択し、安らかな最期を過ごせるよう各機関からの支援が得られている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・救急時の研修を行うと共に、急変や事故発生時の振り返りを行い、出来ていた点と出来なかった点を明確にし、今後どうすればいいか話し合っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定した消防訓練を実施し、職員だけではなく入居者にも参加してもらい、避難や対応のシミュレーションを行うとともに、参加できなかった職員には報告書で内容を周知している。ハザードマップで危険地域の把握も行っている。	消防署の指導の下、年2回の消防訓練を行った。コロナ禍以前は地域の自治会の訓練にも参加していた。実際に車いすの方をおんぶして移動したが、全員の避難には時間や体力の限界にも課題が残った。火元から離れた場所に避難し救助を待つことを申し合わせた。	昨今、想定外の集中豪雨や災害が発生しています。通信・交通の途絶により連絡が取れない場合なども想定し、職員間で再度検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の思いを尊重し、言葉遣いや対応にも「人生の先輩である」と敬意をもって対応している。	プライバシー保護と接遇の研修を行っている。日々の業務の中で不適切な言葉かけや対応がないように職員間でも気をつけ合い、友達ではないことを注意している。会話や行動の中で虐待に相当しないか否かの検討も随時行い尊厳が損なわれないよう注視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中からも本人が本当になりたいことは何なのかを察知すると共に、話しやすい関係性を構築することで、望まれていることを気軽に相談できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員がそろった一律の生活リズムではなく、基本的なところ以外はその方に応じた時間配分で過ごしていただいている。一日中フロアに居ていただくわけではなく、自分の意志で居室とフロアを自由に使用して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍により一緒にご希望のものを買いに行くということが難しくなっている中で、本人様の要望や希望をお聞きし家族様にお問い合わせするか施設で対応している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染予防の観点から食事の盛り付け等現在は行っていないが、食器洗い等出来るところはお手伝いしていただいている。定期的に食事レクで希望のメニューを伺い、出来る限り食材の購入から調理まで参加していただいていた。	専門業者から届いた副食を、今は職員が温めて配膳している。食事メニューをホワイトボードに大きく書く人や食器洗いをする人など役割をもっていただいている。クリスマス会にはケーキを買って、いちごやチョコを盛り付けて賑やかな集いを楽しんだ。	以前は毎月1回の食事レクレーションをされていましたが、コロナ禍で中止となっています。感染対策を工夫し楽しみの一つとして再度取り組まれることを期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量・水分量を記録すると共に、毎月体重測定を行い、大きく増減があった場合には往診医に相談して対応している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯科医の指導の下、口腔ケアを行っている。その方に応じた方法で口腔ガーゼやスポンジブラシ等も必要に応じて使い分けている。夕食後には義歯を預かり洗浄剤で消毒している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することにより、声掛けや誘導のタイミングを調整し、出来る限り最後までトイレで排泄できるように取り組んでいる。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレでの排泄ができるよう声をかけている。入居者の入れ替わりがあり、自立されている方が多くなった反面、転倒事故の心配もあり見守りを中心に職員間で検討し取り組んでいる。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、水分量が減りすぎないように注意するとともに、腸が動くような体操も取り入れている。必要に応じて往診医と連携し、服薬での排便の促しにつなげている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴やシャワー浴・清拭等、その方の身体状況や健康状態にあった入浴方法にしている。全部をかなえられるわけではないが、出来るだけご希望の時間に入浴を楽しんでいただけるように配慮している。	3日に1回、午前中の入浴を基本としている。一人ひとりのその日の気分や体調を見て柔軟に対応する。気がすすまない方には職員を変更したりお誘いの工夫をしている。個浴でシャワーチェアも用意されている。以前はしょうぶ湯やゆず湯も楽しんだ。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に日中フロアにいていただく訳ではなく、自由に居室と行き来し、休息していただいているが、昼夜逆転にならないように配慮はしている。その方の健康状態に適したマットレスやベットを選定し、安心して休めるようにしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用されている薬の内容を理解し、用法や副作用については往診医や薬剤師から指導を受けている。薬の服用による体調の変化と思われる症状が出た場合にはすぐに往診医に連絡して指示をもらっている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり食器を洗っていただいたりと長年続けられてきた家事の中で出来る事を日々の役割として続けていただいている。個別で興味のあることへの参加がしやすいように支援している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、現在は行えていないが、通常であれば天候のいいときに近隣に散歩に出かけられたり、スーパーやホームセンターでの買い物ができるように支援している。外食や喫茶の希望があれば家族様とも協力し個別に支援している。	天気の良い日には中庭や近くのスーパー等に出かけるのを楽しみにしていたが、今は病院への通院が唯一の外出の機会となっている。職員の提案で、春にお花見ドライブをして記念写真を撮った。今年は近くの和田神社に初詣に行く計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みやお預かりはトラブル回避のためお断りしており、立て替え払いで外出や買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話でかけていただいたり、家族様や友人からの電話をおつなぎしている。届いたお手紙は本人にわかりやすいように説明をしてお渡しし、お返事の要望があれば対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアには季節が分かるような壁面画や飾りつけを派手すぎない程度に行い、エアコン・加湿器・空気清浄機を用いて居心地のいい空間作りに努めている。居室やトイレが分かりやすいような案内表示もしている。	常に換気できるよう工夫し、消毒も朝昼晩の3回行いコロナ感染対策には十分気をつけている。入居者と職員で一緒に作った季節の壁飾りはウサギがモチーフされ新年の雰囲気を感じられる。大きな食卓の周りにソファが並び、くつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の席以外にソファを配置し、自由に場所を選んですごされたり本を読まれたりされている。居室との往来もご自身で行ってもらっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の許容範囲内で使い慣れた家具などを持ち込んで使ってもらっている。仏壇を持ち込まれ故人介護される方も多くおられる。	ベッドとクローゼットは備え付けとなっている。居室の入り口には表札の横にわかりやすいように大きく名前が書かれている。使い慣れた整理ダンスの上に家族や愛犬の写真、メッセージカードなどが飾られて、穏やかな雰囲気が感じられるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやご自身の部屋の場所が分かりにくい方には、大きく表示したり矢印で案内している。居室内に持ち込まれたテレビやラジオ等も自由に使っていただき、残存機能の維持に努めている。		